

1.3 μm インジウム・リン半導体レーザ

1977 年（昭和 52）には、1.3 μm インジウム・リン半導体レーザ室温連続発振に成功した。その製法が全く明らかでない状況下で、数十回の試行錯誤ののち、格子定数が整合する条件を満たし、発光層が均一で非常に薄い結晶を得ることに成功した。この結晶を用いた半導体レーザは 1 年以上の室温連続動作が確認された。本レーザ技術は TPC-3 に採用された。

出典：KDD 社史